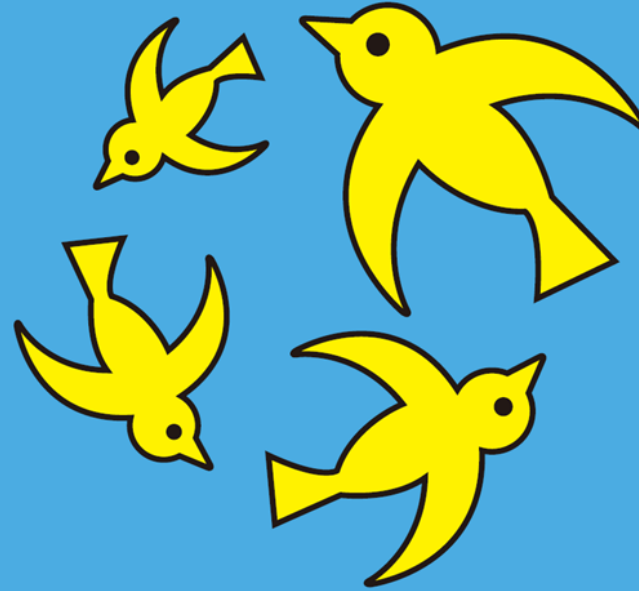


新しい学習指導要領

# 生きる力

学びの、その先へ



本日の議題について

# 学習指導要領総則

何ができるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか

何が身に付いたか

子供の発達を  
どのように支援するか

実施するために何が必要か

【前文】

- ・教育の目的・目標
- ・豊かな人生と持続可能な社会の創り手の育成
- ・社会に開かれた教育課程
- ・学校段階等間の接続と小学校学習指導要領 など

【総則】

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

- ・生きる力の育成に向けた資質・能力の3つの柱
- ・カリキュラム・マネジメントの充実 など

第2 教育課程の編成

- ・学校の教育目標
- ・学習の基盤となる資質・能力  
(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力)
- ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力 など

第3 教育課程の実施と学習評価

- ・単元等のまとまりごとの主体的・対話的で深い学び、  
見方・考え方
- ・学習評価（指導と評価の一体化、妥当性・信頼性の確保）
- ・言語活動（言語能力の育成）
- ・コンピュータ等の情報手段活用（情報活用能力の育成）

第4 児童の発達の支援

- ・ガイダンスとカウンセリングによる発達の支援
- ・生徒指導、個に応じた指導、キャリア教育
- ・障害のある児童生徒、日本語指導、不登校児童生徒への配慮

第5 学校運営上の留意事項

- ・校務分掌に基づく役割分担と連携
- ・カリキュラム・マネジメントと学校評価や  
各種全体計画との関連付け

# 第4回検討会で各委員から議論する必要があると示された課題

- 豊かな人生と持続可能な社会の創り手の育成は引き続き重要。変化する今後の社会像をどう捉え、その中で学校の姿をどう構想するか。

- 学習者である子供たちの全人的な発達を支え、資質・能力の育成を保障する観点から、学校における教育課程をどのように構想するか。
  - ① 幼児教育から高等学校卒業段階までの発達（認知的発達、身体的発達、社会情緒的発達、キャリア発達）をどのように支えるか。
  - ② 教育課程全体の学び、各教科等の学びを通して、子供たちにどのような資質・能力の育成を目指すか。
  - ③ 子供たちが学ぶ内容を、どのような原理・方法で選択・組織するか。
  - ④ 子供たち一人一人の特性等を考慮した教育課程の個別性と、それらを包摂する学校の教育課程との調整をどのように図るか。

- 各教科等の目標、内容、方法、評価の在り方をどのように考えればよいか。
  - ① 各教科等の目標（見方・考え方、資質・能力の3つの柱）について改善すべき点はあるか。
  - ② 各教科等の内容を、どのような原理・方法で選択・組織するか。
  - ③ ①、②を効果的に育成するための方法（教材、指導方法、学習評価）には何があるか。

- これまでの学習指導要領（①学習指導要領改訂の経緯、②総則と教科等との関係、③改訂のコンセプトや用語の周知）を振り返ると、どこに課題があったのか。

- 現行学習指導要領の実現に向けて、学習指導要領の改善とそれを取り巻く諸条件の改善について、どのような方向が考えられるか。

- 学習指導要領の実現に向けた政策形成・展開の在り方をどのように考えればよいか。
  - ① 学習指導要領の用語の定義や伝え方にどのような工夫が考えられるか。
  - ② 教育委員会、学校にはどのようなことが求められるか。
  - ③ 教育課程の編成・実施に際しての条件整備をどのように考えるか。

○ 我が国が直面するカリキュラムのリデザインとエコシステムの確立に向けて諸外国はどのような戦略をとっているのだろうか。国内に参考となる知見はあるか。  
○ 現行学習指導要領の改訂を提言した中教審答申以降の国の教育課程行政を取り巻く提言にはどのようなものがあり、それらは相互にどのような関係性を持っているのか。

# 研究開発学校について

## 研究開発学校とは

教育課程の基準の改善に資する実証的資料を得るため、学習指導要領等現行の教育課程の基準によらない教育課程の編成実施を認め、新しい教育課程、指導方法等について研究開発を行う（昭和51年度から開始）。

- 市町村教育委員会等の学校設置者からの申請に基づき文部科学大臣が指定（4年 ※平成24年度指定校までは3年）。
- 文部科学省が示す「研究開発の募集課題」や「研究開発の視点の例」に基づき、各学校の創意工夫により研究開発課題を設定。

※令和5年度の研究開発学校数は計26件、55校  
令和5年度予算額 69,195千円（令和4年度予算額 68,360千円）

## 研究開発の推進イメージ例

<指定1年目>



研究開発学校は、文部科学省や教育研究開発企画評価会議協力者の指導助言を踏まえ、

- ① 子供たちに育むべき資質・能力の明確化
- ② 新設する教科等の教育課程上の位置付けや教育課程全体における新設する教科等と既存の教科等との関係性の明確化
- ③ 新設する教科等の目標、内容の明確化
- ④ 特別の教育課程を実施した成果を分析するための評価方法や評価指標の決定（併せて、成果検証の際に子供たちの変化を見るため、特別の教育課程を実施する前段階での子供たちの状況を把握）

等を行う。

<指定2～4年目> 指定1年目に、文部科学省や教育研究開発企画評価会議協力者の指導助言も踏まえて編成した特別の教育課程を実施し、教育課程や指導方法を改善するとともに、特別の教育課程の編成により、子供たちがどのように変化したかなど、成果の検証を行っていく。

学習指導要領の改訂をはじめ、今後の教育課程の改善に資するより質の高い研究開発を実施

# 御発表者の御紹介

## ○目黒区教育委員会

教育指導課長 寺尾 千英

「40分授業午前5時間制を生かした  
創意工夫ある教育課程の開発」

## ○春日井市教育委員会

教育研究所 教育DX推進専門官 水谷 年孝

「愛知県春日井市での1人1台端末＋クラウド活用の  
授業と情報活用能力育成の実践について  
～研究開発学校：出川小・高森台中での実践報告～」

## ○愛媛大学附属高等学校

校長 吉村 直道

副校長 八木 昌生

「愛媛大学附属高等学校 事例報告」